

中部ブロック会報 第39号

2024年度中部ブロック研究会 2025年2月15日(土)～16日(日)

開催:ITビジネスプラザ武蔵(石川県金沢市) 主幹校:金城大学・金城大学短期大学部

【2024年度中部ブロック研究会を終えて】 ブロックリーダー 河合 晋(岐阜協立大学)

今年もこうして会報をお届けできることを大変嬉しく思います。ご多忙の中、ご発表、ご参加いただいた皆様、中部ブロック以外からご参加頂いた各位に改めて御礼申し上げます。

中部ブロック研究会の対面開催も定着してきました。今研究会も、普段なかなか会えない研究者の間と議論を交わし、懇親会では日頃の愚痴を言い合い、「楽しくてためになる研究会」とする中部ブロックのモットーを具現した時間となりました。

また、今研究会は、能登半島地震復興祈念の意味合いもあります。そうした中で、完璧な事前準備をして頂いた金城大学、金城大学短期大学部の先生には、重ねて感謝申し上げます。

今後とも、中部ブロック活性化のために、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

研究発表①【経営学部における数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)の実践事例から見た現状と課題】

○大須賀 元彦(中京学院大学)

本発表では小規模私立大学経営学部における教育実践から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の現状と課題を整理した。受講者の多くがプログラムを修了でき、このプログラムを通して関連する能力が身に付いたことがアンケート結果から明らかとなった。その一方で、同アンケートの結果はデータ等の活用時の留意点について少数の受講者が課題意識を持っていることを示した。また実際の講義においては生成系AIの活用で課題が見られたため、これらの点をさらに指導できるような教育プログラムの展開が必要であると論じた。

研究発表②【AI時代のスキル変遷と簿記論教育:自動化が進む中で求められる理論的理解と応用力】

○堂野崎 融(九州共立大学)

本発表では、AI時代におけるスキル変遷と簿記教育の方向性について論じた。

世界経済フォーラム(WEF)の「The Future of Jobs Report」では、グローバル企業の調査や労働市場データに基づき、調査されている。WEFのレポートにおけるTop10スキルの変遷を分析したところ、分析的思考、創造的思考といった基盤的スキルが一貫して重視されていた。AIが事務的作業を代替する中では、仮説の設定・評価・判断といった思考プロセスが不可欠となっている。

簿記教育においては、会計ソフトの普及による業務の自動化が進む一方で、簿記の理論的理解が重要性を増している。決算処理や財務諸表分析において「数字の背景を読み解く力」が求められており、今後は、簿記教育においても、ケースメソッドやグループディスカッションを取り入れ、「仮説と検証」を伴う場を設ける等、数字を正確に処理するだけでなく、洞察を得られるような教育へシフトすることで、AI時代に対応する判断力や分析力を養う教育の必要性を述べた。

研究発表③【デザイン思考を用いて課題解決力の向上を目指す「地域学入門」の授業設計と提案】

○川瀬 真弓(岐阜大学)

岐阜市立女子短期大学では、「岐阜学概論」を、地域課題を解決するためのデザイン思考アプローチを用いて再編した。学生が地域課題に主体的に取り組むためには、人間中心の課題解決スキームを身につけ、問題を自分ごととして捉える力を養うことが重要である。授業では、問題解決スキームを提示し、学習方略に関連する6項目(例:情報収集,分析,評価,仮説構築など)を設定して主観評価を実施した。受講前後の意識の変化を測定したところ6項目すべてで改善が見られた。特に「仮説構築」と「評価」の分野での向上が顕著であり、学生の問題解決への意識が向上したことが示唆された。本研究は、デザイン思考を活用した授業設計が学習者の課題探究活動への意識づけを効果的に支援したかどうかを確認したものであり、授業改善のための課題の特定については今後取り組む予定である。

研究発表④【まちづくりと持続可能な参加型ホスピタルアート・プロジェクト】

○荒木 由希(金城大学)

渡邊 亮士・大畑 友紀(金城大学)

大場 新之助(金城大学短期大学部)

金城ホスピタルアート・プロジェクトは、金城大学・短期大学部の医療・美術・経済の連携により、①医療機関へ癒しを届ける、②学生アーティストの作品公開の機会の付与、③伝統工芸の販路開拓という社会課題の3本柱を解決し、まちづくりにつなげるものである。本プロジェクト第一弾は、既存の作品で眠っているものを掘り起こすことを目的に、美術学科の卒業制作選抜作品9点を展示した。第二弾は、癒しをテーマとしたホスピタルアートコンテストを開催し、応募総数40点のなかから選抜された15点を展示した。第三弾は、石川の伝統工芸品である加賀友禅の花嫁のれんを大学生・留学生・小学生総勢137名で共創し、完成お披露目会では、白山市長・松任石川中央病院長・金城大学学長・学生代表を筆頭に参加者100人全員でテープカットした。

参加型ホスピタルアートを通じて地域の行政・医療・大学が連携し、コミュニティの場の創設がなされ、地域の伝統工芸の振興や文化交流の推進、国際的な文化理解、地域の絆が強化された。

学生発表①【ラジオサークル活動とプロジェクト科目の連携】

○平出 大和(愛知東邦大学経営学部地域ビジネス学科4年)

- ・発表中、自分も何を話しているのかわからなくなることがあった。話がまとまっていなかったのが原因の一つと考えられるため、台本をがつつり書くのではなく、話す内容を簡潔に書きだしておく等ちょっとした準備をしておくべきだと思った。
- ・10分ほど話すことができた。話している間も、皆さんに聞こえやすいように大きな声で、適切なスピードで話すということは意識できていたと思う。
- ・質問に答えるのはやはり苦手だなと感じた。それは結局自分が内容を理解していないところがあったからだと思うし、緊張も原因の一つと考える。
- ・先生方のコメント自体はうれしいし、励みにもなるし、自信にもなる。このような場に立てたのも、いままで自分がやってきたことの積み重ねだと思うので、この気持ちをこれからも大切にしていきたい。

学生発表②【「名古屋六大学討論会」運営の現状と課題】

○高橋 竜也(愛知東邦大学経営学部地域ビジネス学科3年)

- ・六大学討論会のことについて、先生方に聞いていただいて、知名度を上げられたと思う。
- ・六大学討論会のことについて、自分が気にしていなかったことを質問された時は、昔はこう思っていたなと思い出すことができました。

- ・今回の発表で、六大学討論会のことを、自分が思っている以上に、スラスラ言葉が出てきたと思いました。
- ・先生方の前で発表は、初めてでとても緊張しました。しかし、これが自信になりました。
- ・後輩などに発表する時でも緊張しますが、今回の発表は、先生方が相手だったのでとても緊張しました。
- ・これから先、社会に出たら、自分より上の方々に発表することになるので、貴重な体験が出来て良かったです。
- ・何度もシミュレーションしたはずなのに、本番では、6割くらいしか力が出せず悔しかったです。

講演【学生起業によるアントレプレナーシップと地域貢献への展望】

荒木 由希 先生(金城大学総合経済学部)

司会:坂上 牧子 先生(金城大学短期大学部)

専門分野：地域活性、文化資源

研究テーマ：伝統産業の活性化

主な担当授業科目：日本文化論、ボランティア

主な社会活動

- ・学生発ベンチャービジネス起業支援
- ・金沢日仏協会事務局長理事
- ・着物ショー（フランス、インド、フィリピン、ロシア、タイ、ベトナムなど）
- ・金沢市まちづくりチャレンジ事業（ホスピタルアート）

お知らせ①【中部ブロック研究助成について】

- ・個人研究テーマ1件につき、5万円の助成を行う（最大2件まで）。
- ・2025年3月より募集を開始し、同年4月中に審査・助成を行い、同年5月より研究を開始する。
- ・2025年度中部ブロック研究会（2026年2月予定）及び2026年全国大会（2026年6月予定）で研究発表をすることを条件とする。

※お問い合わせ kawai@gku.ac.jp（岐阜協立大学 河合）

お知らせ②【学生発表の旅費交通費補助】

学生発表のための旅費交通費が1万円を超えない場合は実費分、1万円を超える場合は、1万まで補助する（最大5人まで）。

2024年度中部ブロック研究会実行委員長 岡野大輔

2024年度中部ブロック研究会実行副委員長 坂上牧子

中部ブロック研究会運営委員会 河合晋 岡野大輔 上野真由美 梶山亮子 大須賀元彦 川瀬真弓